

## GCOE 国際会議出席報告書 (外国旅費用)

拠点リーダー 川合 光 殿

(ふりがな) 氏 名	たかもと まこと	所属・職名	指導教員名 (院生の場合)
	高本 亮	天体核・D3	中村 卓史
Tel,Fax e-mail	takamoto@tap.scphys.kyoto-u.ac.jp		
発表題名	A New Numerical Scheme for Relativistic Dissipative Hydrodynamics and Resistive Magnetohydrodynamics, and Application to Astrophysics		
著者名	Makoto Takamoto		
会議名称 ・開催期間	自 2011年 5月23日 ~ 至 2011年 5月26日		
開催地 (国、市)	Poland, Krakow		
出張期間	自 2011年 5月22日 ~ 至 2011年 5月28日		
国別参加者数	全84人 (USA:24, Poland:22, Germany:5, France:5, その他:28)		
<p>発表内容、聴衆の反応、質疑応答、その他について簡潔に記述してください。 (口頭発表・ポスター発表の別も文中に明記すること。)</p> <p>申請者は2011年5月23日~26日にポーランドの Krakow で行われた国際研究会の”Understanding Relativistic Jets”に参加してきた。この研究会は3, 4年に一度ポーランドで行われる研究会で、今回は研究の進展に加え、Relativistic jet の観測において非常に大きな貢献をした Marek Sikora 教授の定年退職記念として行われ、この分野に大きな貢献をした有名な研究者が世界各地から多数参加した。</p> <p>申請者はこの研究会において、博士課程の中心的研究課題である相対論的散逸の実用的数解法の研究成果について、” A New Numerical Scheme for Relativistic Dissipative Hydrodynamics and Resistive Magnetohydrodynamics, and Application to Astrophysics”というタイトルでポスター発表を行った。ポスター発表では先に述べた多数の研究者に興味を持ってもらえ、有意義な議論を行った。質問では特に申請者の実用的解法の精度や具体的な応用例についてきかれ、ポスターに載せた計算結果を用いて説明を行った。具体的な応用例については申請者の海外学振の受入研究員をお願いした Kirk 教授と特に議論を行い、来年度以降の研究について話し合った。</p>			

